比布町の将来の地域農業に向けた
基盤整備に関する意向調査
- 概要報告書 -

比布町 農林課 農林業振興室 農政係

将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査

目的：地域計画に基づき、土地基盤整備に関する課題を解決していくため、地域の農業の将来の在り方や条件不利地の土地改良、生産性向上に向けた取組を踏まえ、基盤整備の意向を把握し、将来ビジョンの策定に係る協議資料を作成するため

実施期間：６月２日～６月17日

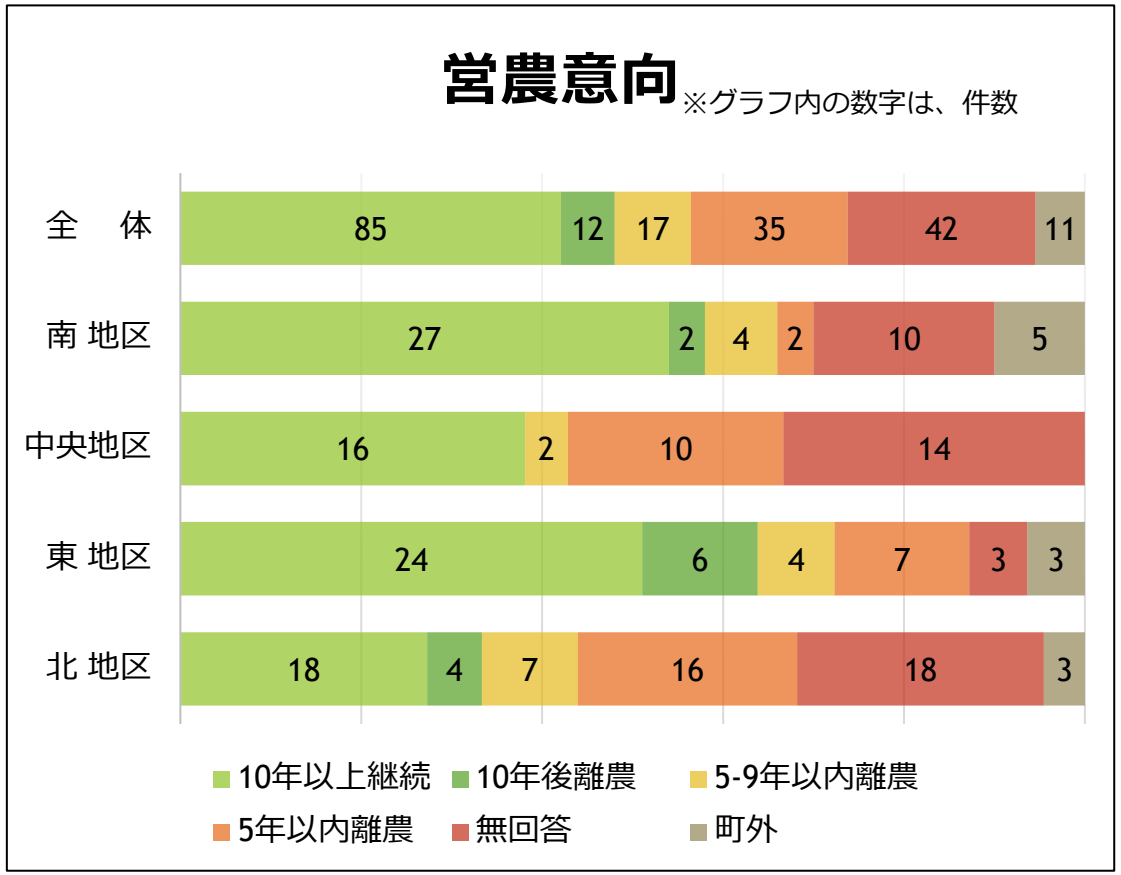
対象者：令和８年度耕作者（水田確認面積を所有し、経営所得安定策等交付申請者※1）
町内191件・町外11件　計202件　　※１

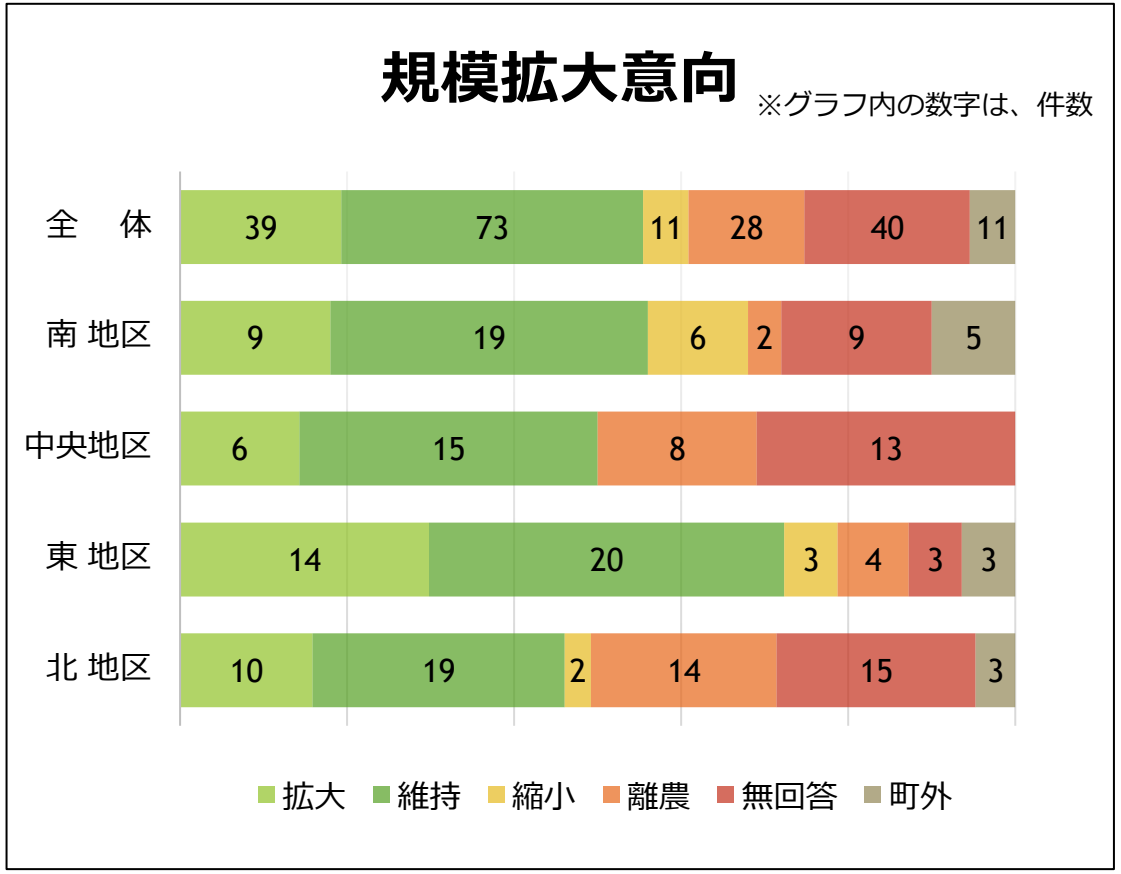
調査方法：①経営所得安定対策申請受付時に個別聴き取り
②基盤整備意向確認図面を用いての整備要望箇所の聴き取り

調査内容：基盤整備への意向　／　整備要望箇所　／　標準区画

回収状況：経営所得安定策等交付申請者149件のうち144件（回収率96.64%）

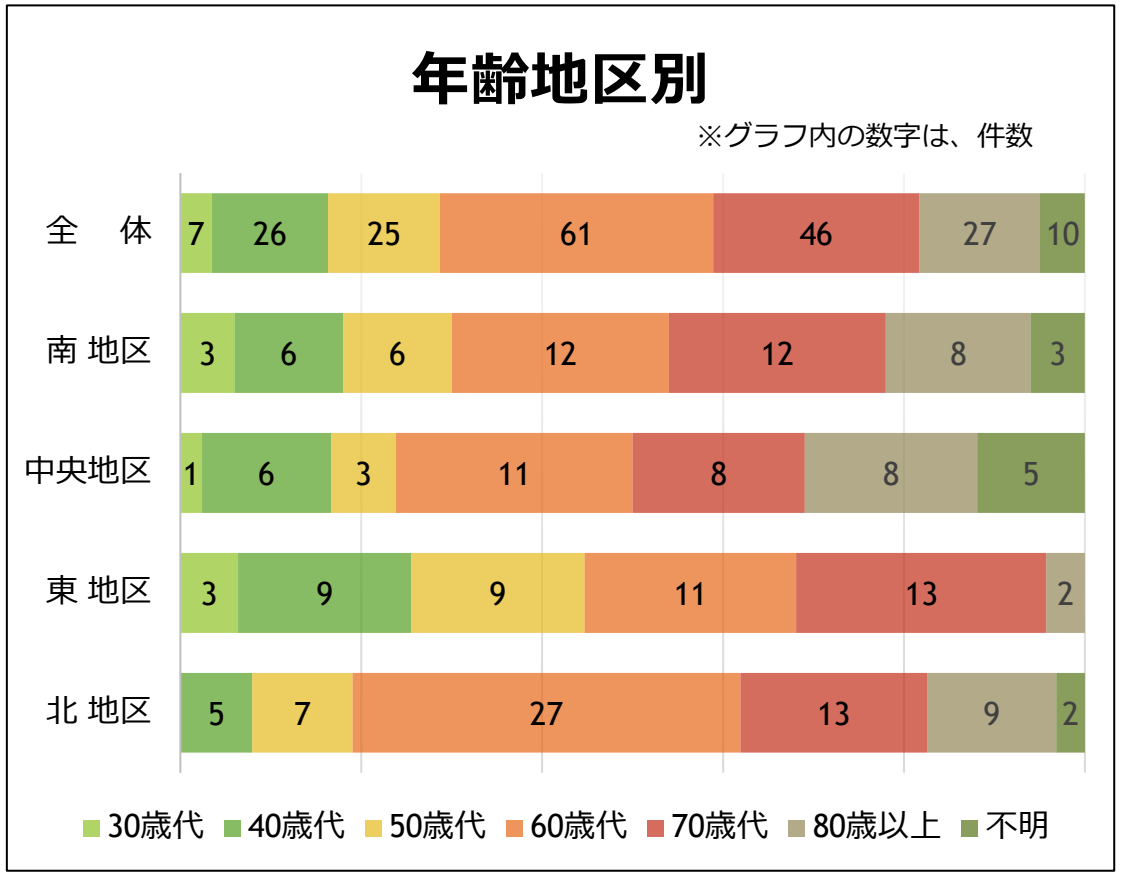
将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -

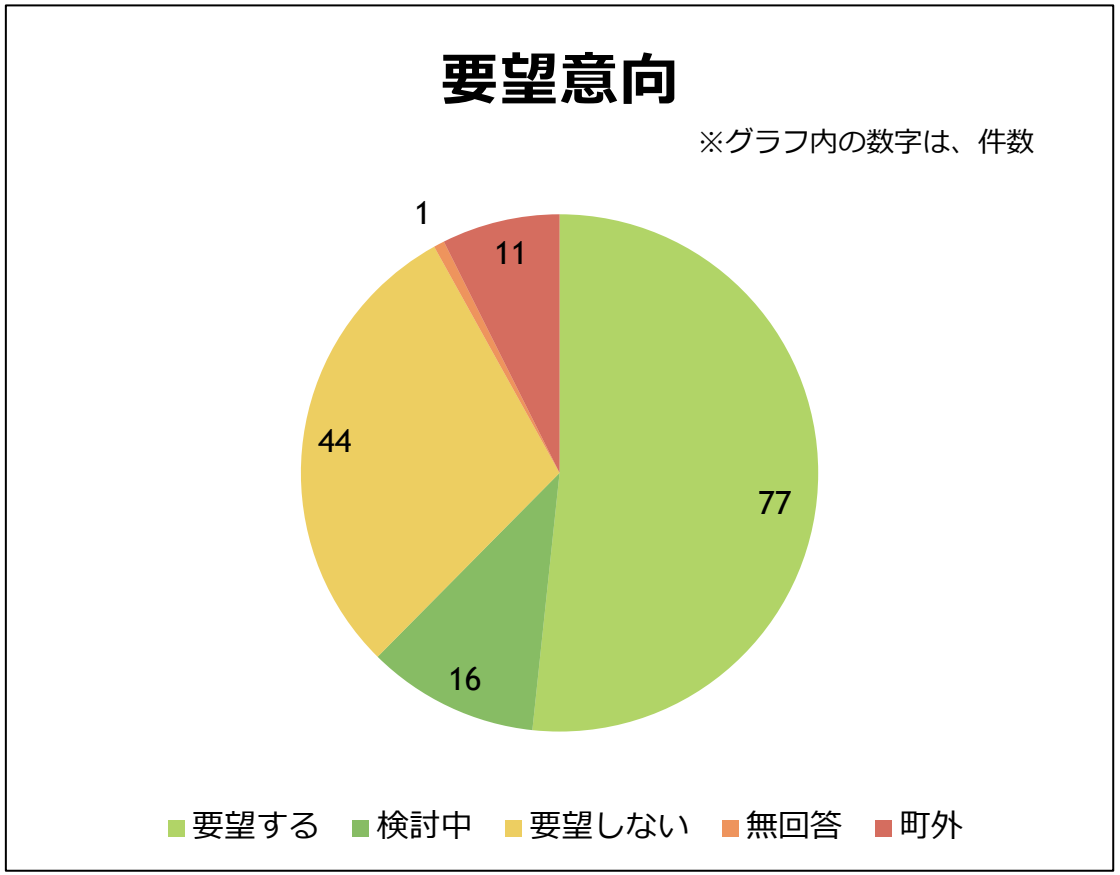




地区別毎の営農及び規模拡大意向では、全体だとこの10年で約90件が離農する可能性がある。特に、中央地区の離農が多いことが予想されるが、現状では、各地区からの通い作により農地の有効利用が図られていると思われる。規模拡大意向では、営農意向の割合に類似し、拡大・維持は半数以上で、どの地区にも拡大意向のある農業者がいることから、離農・縮小意向をカバーできるよう、今後も農地の利用調整が必要と言える。

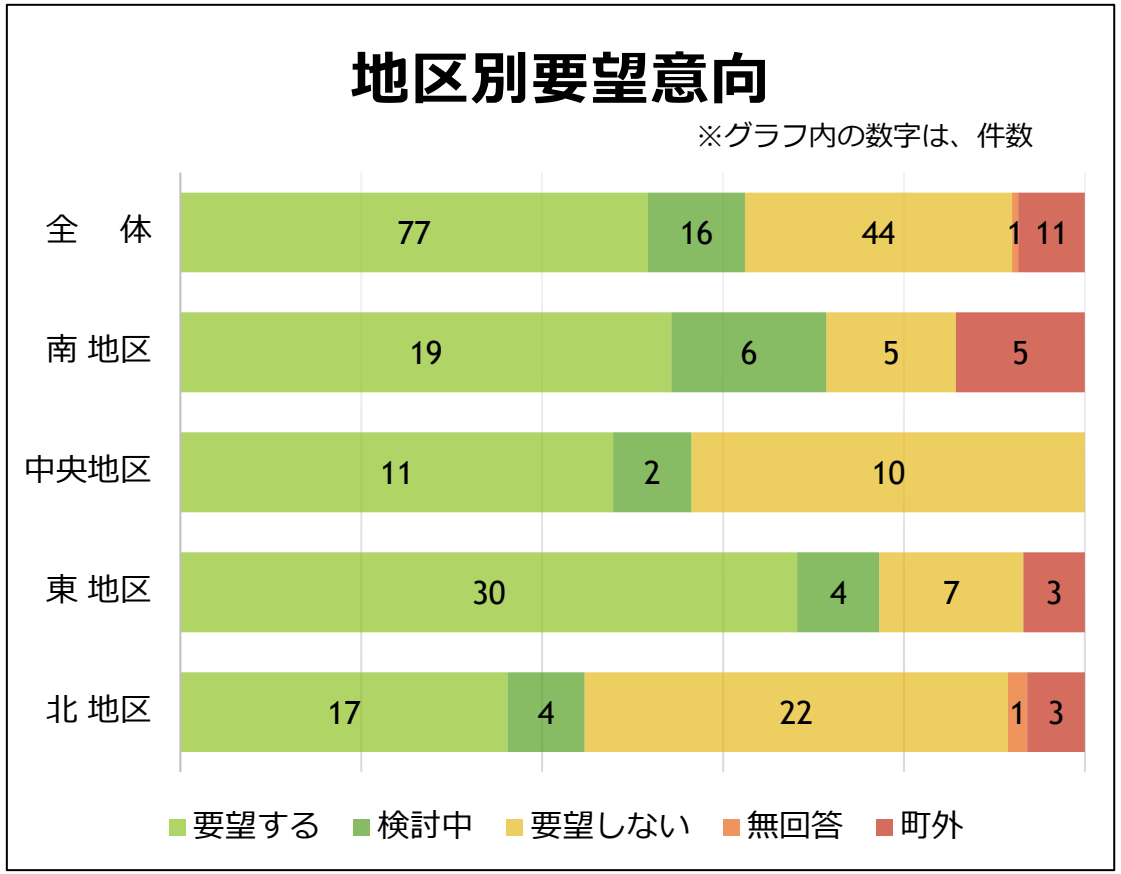
将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -

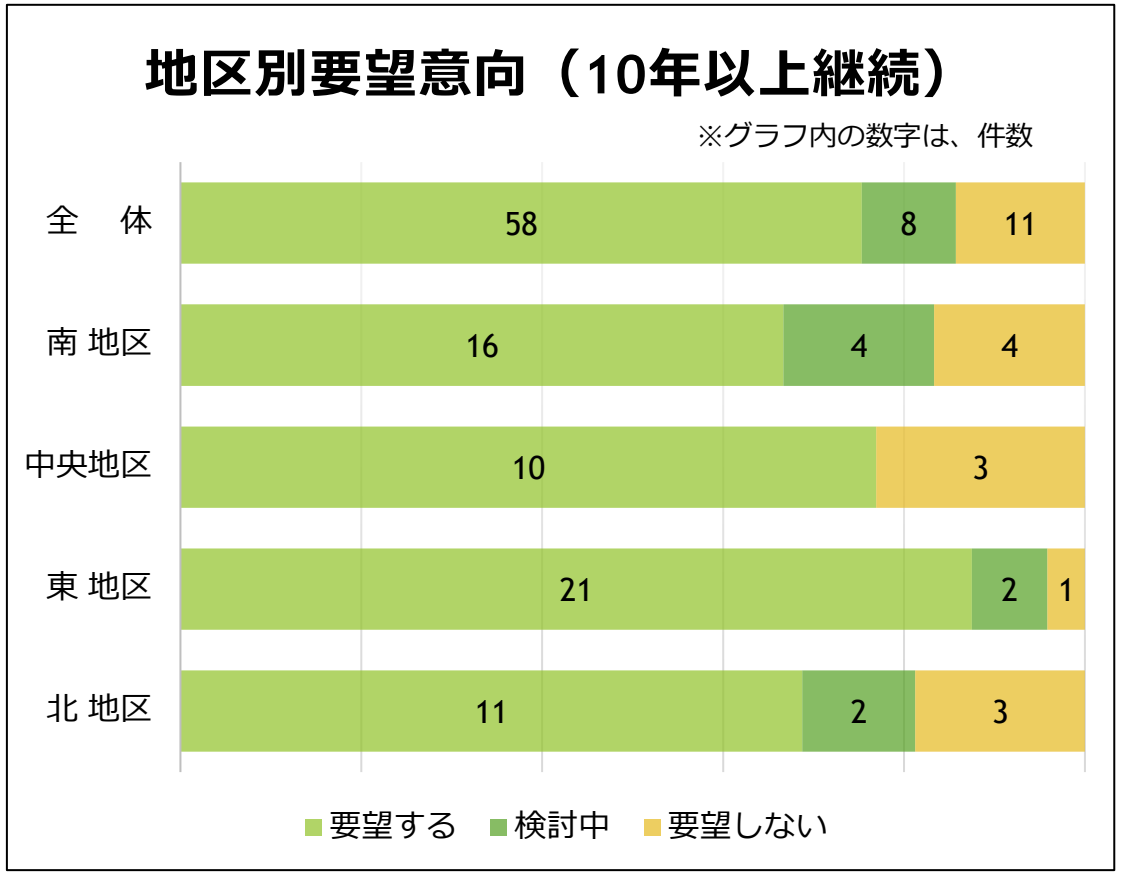




農業者の年齢区分（町外者込・不明者除く）は、地区全体で平均65.6歳で、60歳代までの農業者が全体の58.91%の119人となっている。
要望意向については、「要望する・検討中」と答えた方が62.41%の93件で、地区別でみると東・南地区の要望意向が多い。これまで中央内区と北地区については、道営事業「比布中央第1・第2地区」「拓進地区」で、基盤整備を実施してきた経緯はあるものの、要望意向のある農業者もいるため、耕地の整備要望箇所の詳細と照合し、意向把握していく必要がある。

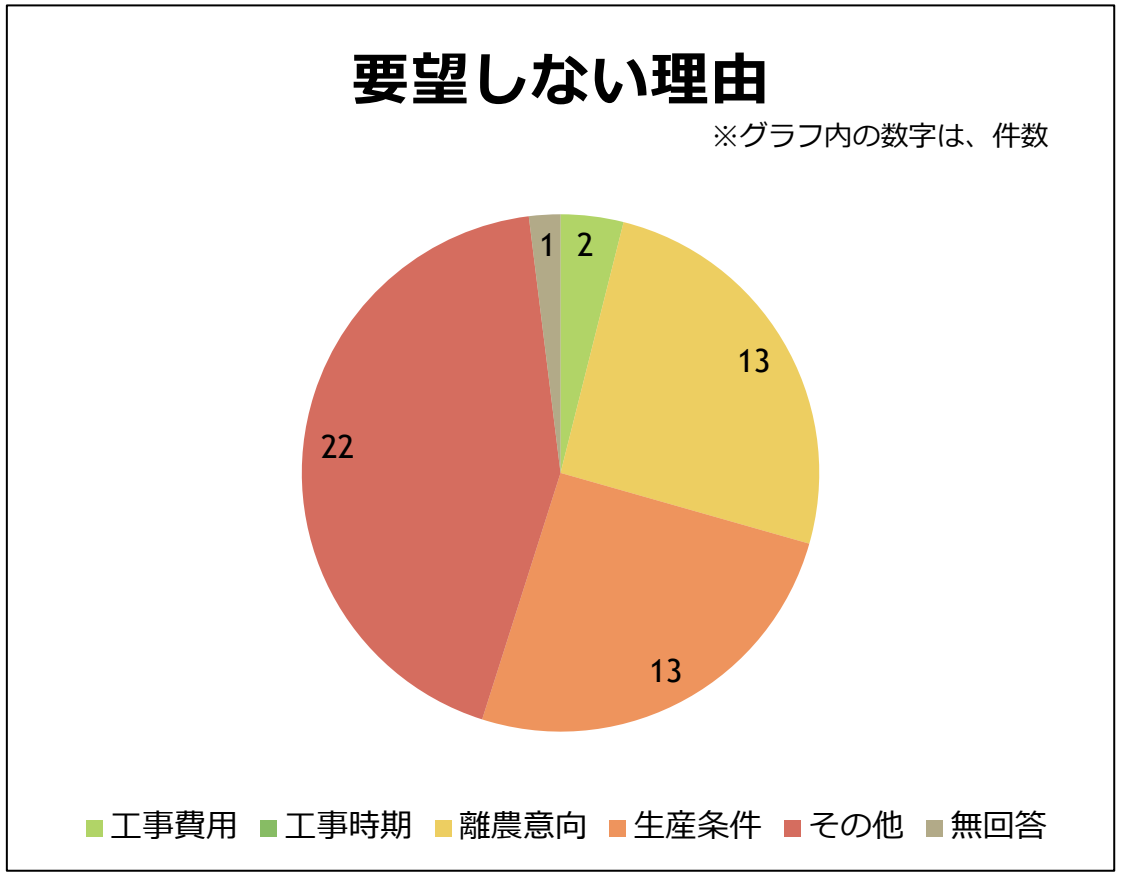
将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -

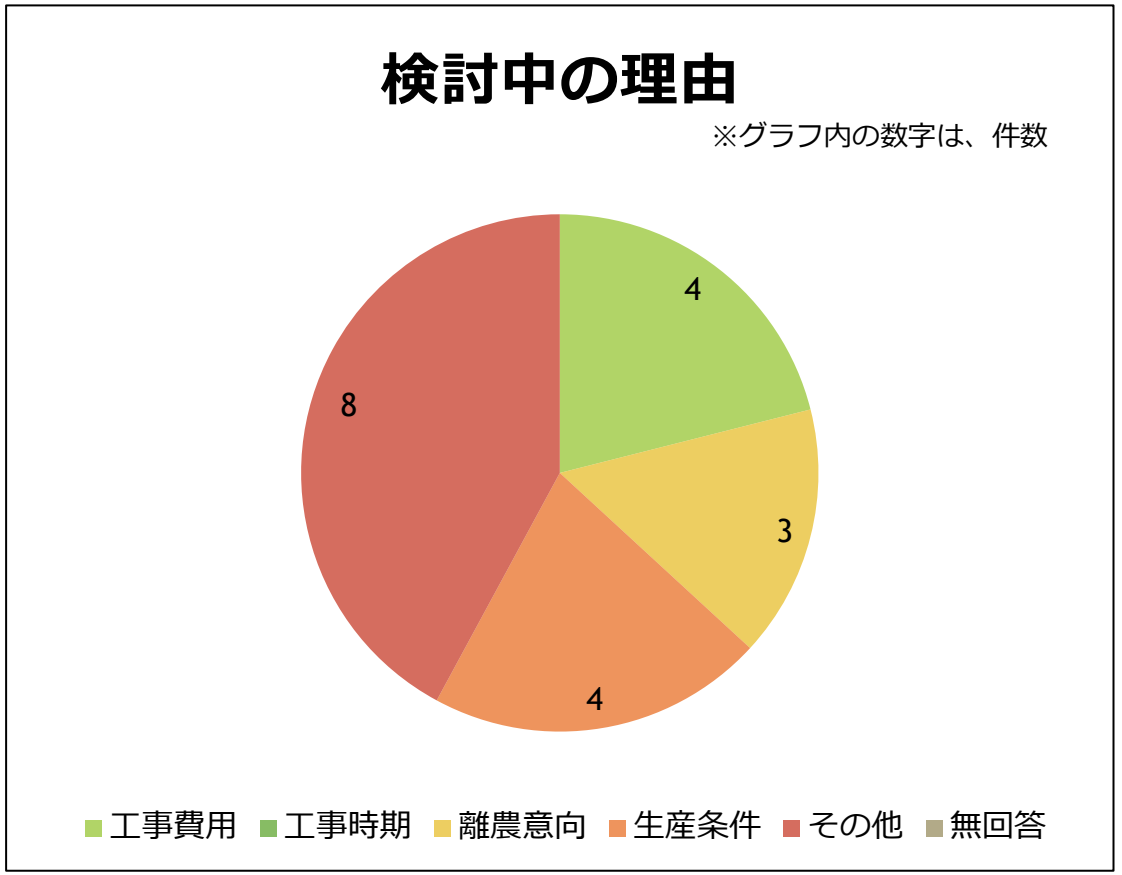




要望意向については、「要望する・検討中」と答えた農業者が62.41%の93件で、地区別でみると東・南地区の要望意向が多い。これまで中央内区と北地区については、道営事業「比布中央第1・第2地区」「拓進地区」で、基盤整備を実施してきた経緯はあるものの、要望意向のある農業者もいるため、耕地の整備要望箇所の詳細と照合し、意向把握していく必要がある。
また、「要望する・検討中」と答えた農業者93件のうち10年以上営農を継続する意向のある農業者が70.96%の66人で、10年以上先の将来を見据えた協議の必要性が高いと思われる。

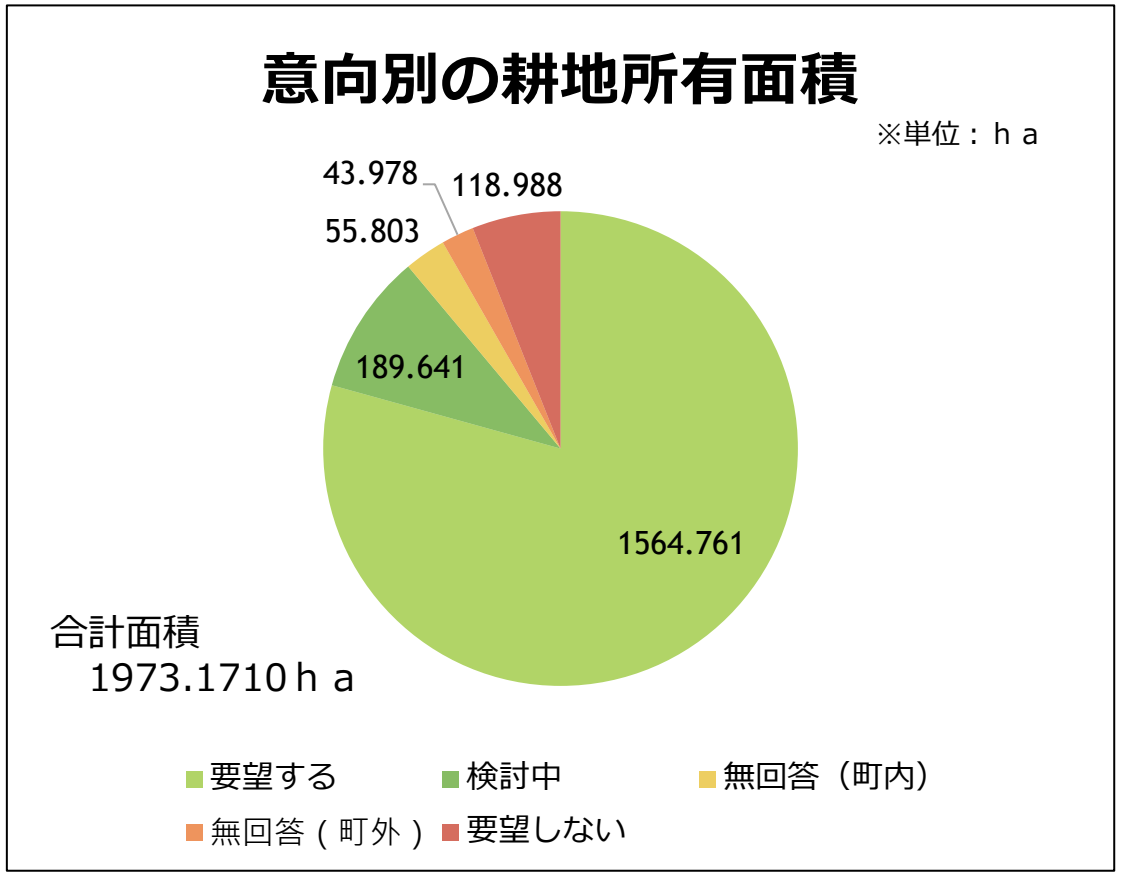
将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -

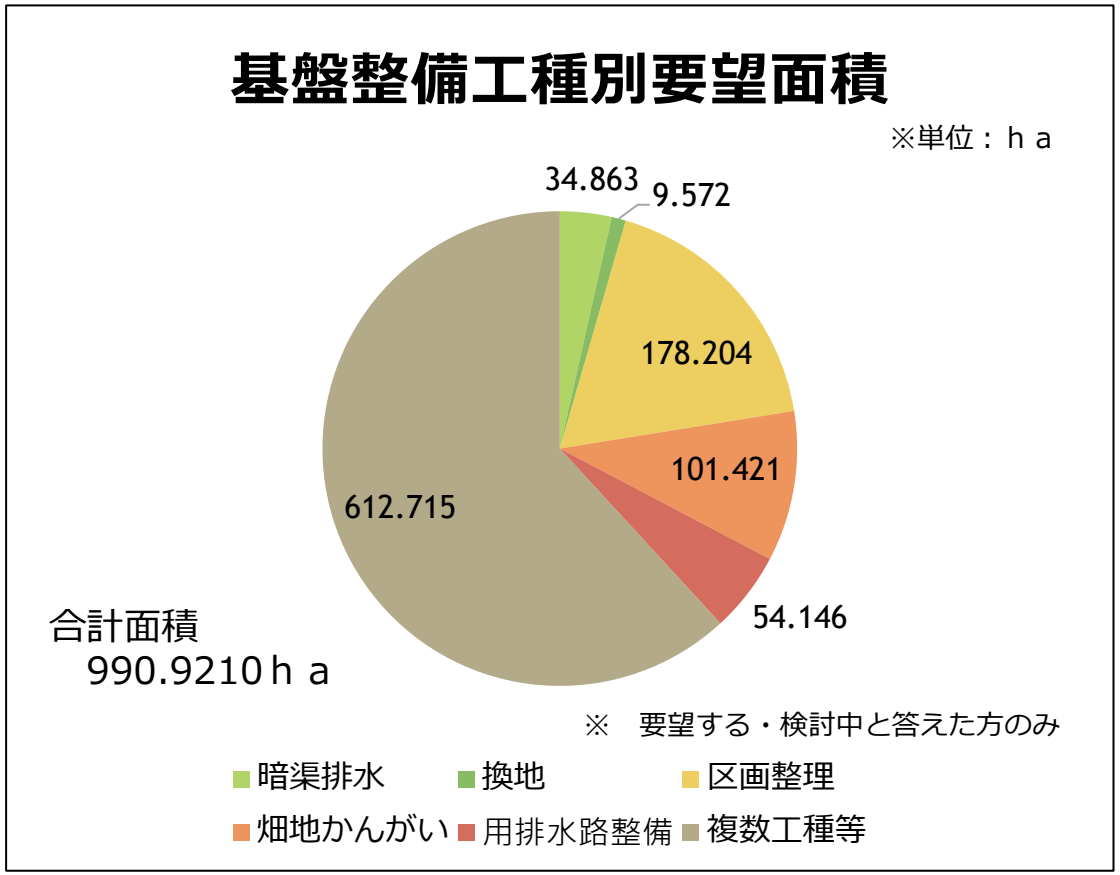




「要望しない」と答えた方の中には、現在、道営事業工事予定の「比布旭北地区」や工事完了した「拓進地区」による理由が多く、その他、畑地化や牧草生産のためといった北地区特有の理由によるものが、その他での回答があった。複数回答方式であったが、やはり、離農意向や生産条件を理由としたもので、工事費用・工事時期といったものが少ない。
「検討中」と答えた方の中の多くが、次の土地の使用者の意思を気にかけている理由であった。このため、工事費用や工事時期と答えた農業者が「要望しない」と答えた方よりも多いことが対照的と言える。

将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -





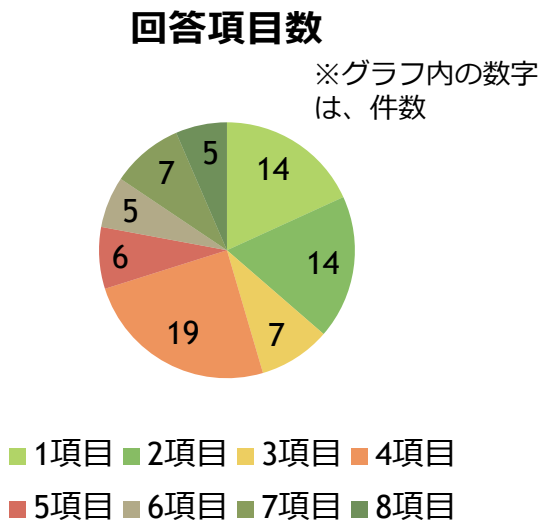
意向別の耕地所有面積では、「要望する」と答えた方の所有面積が、1,564.761haとなっている。要望意向のある方の所有面積は、比布町全体の7割以上となっており、工種別の要望を詳細に調査していく必要があると思われる。工種別要望面積については、「要望する・検討中」と答えた方の意向だが、単一のみというよりも複数工種の要望が多い。これは、区画整理、用排水路整備、除礫など一体的に整備したいという意向が表れているものと推察できる。個人所有のみの考えと地域一体的に考えた場合（現状に合わした基盤整備よりも将来を見据えた基盤整備の視点）、整備要望面積が増加する可能性がある。将来のより良い営農条件を地域一体となって調査・検討する必要があると言える。

将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -

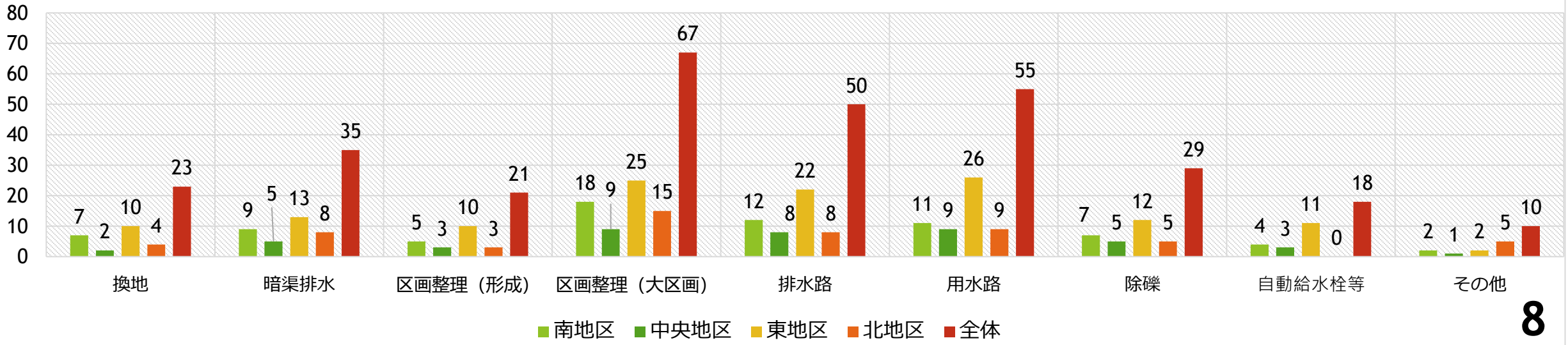
整備要望については、「要望する」「検討中」と答えた農業者のうち回答のあった80件の農業者の意向として、区画整理（88.75%）・用排水路整備（71.25%）の要望が多い。

また、回答項目数でみると、単独工種よりも複数工種での要望が多く、対面式聞取り時に、現状で考えたとき、希望的観測で考えたときでは、地域全体的に考えるため、昨年の個別聞取り時よりも要望が増えているものと予想される。

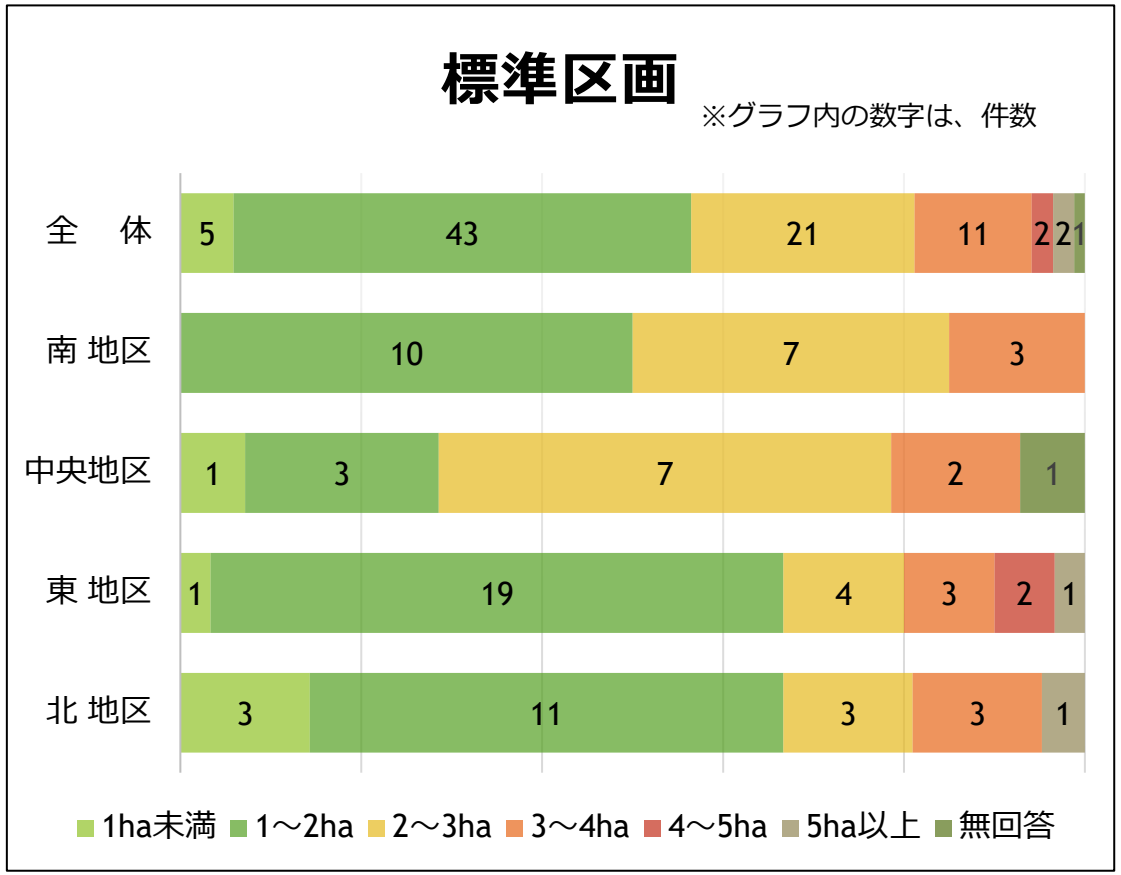
個別事情とは別に地域全体を見た場合、今後も要望は増える可能性が高い。

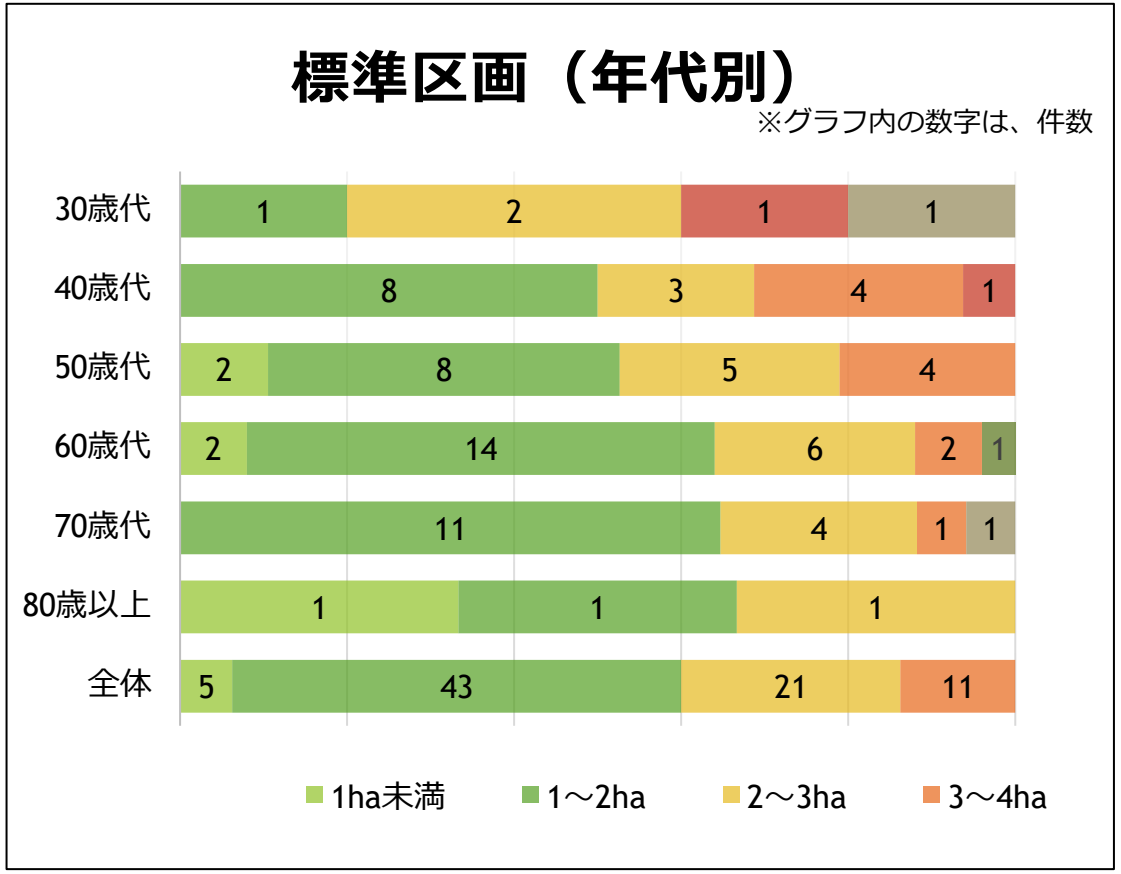


	質問項目
1	分散圃場を集積・集約したい（換地）
2	排水不良や湿害を解消したい（暗渠排水）
3	形の悪い圃場を形成したい（区画整理）
4	圃場区画を大きくしたい（区画整理）
5	圃場内の排水路を改良してほしい（排水路整備）
6	圃場内の用水路を改良してほしい（用水路整備）
7	圃場の石れきを除去してほしい（除礫）
8	圃場管理を情報通信網整備したい（自動給水栓・水位ｾﾝｻｰ）



将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -

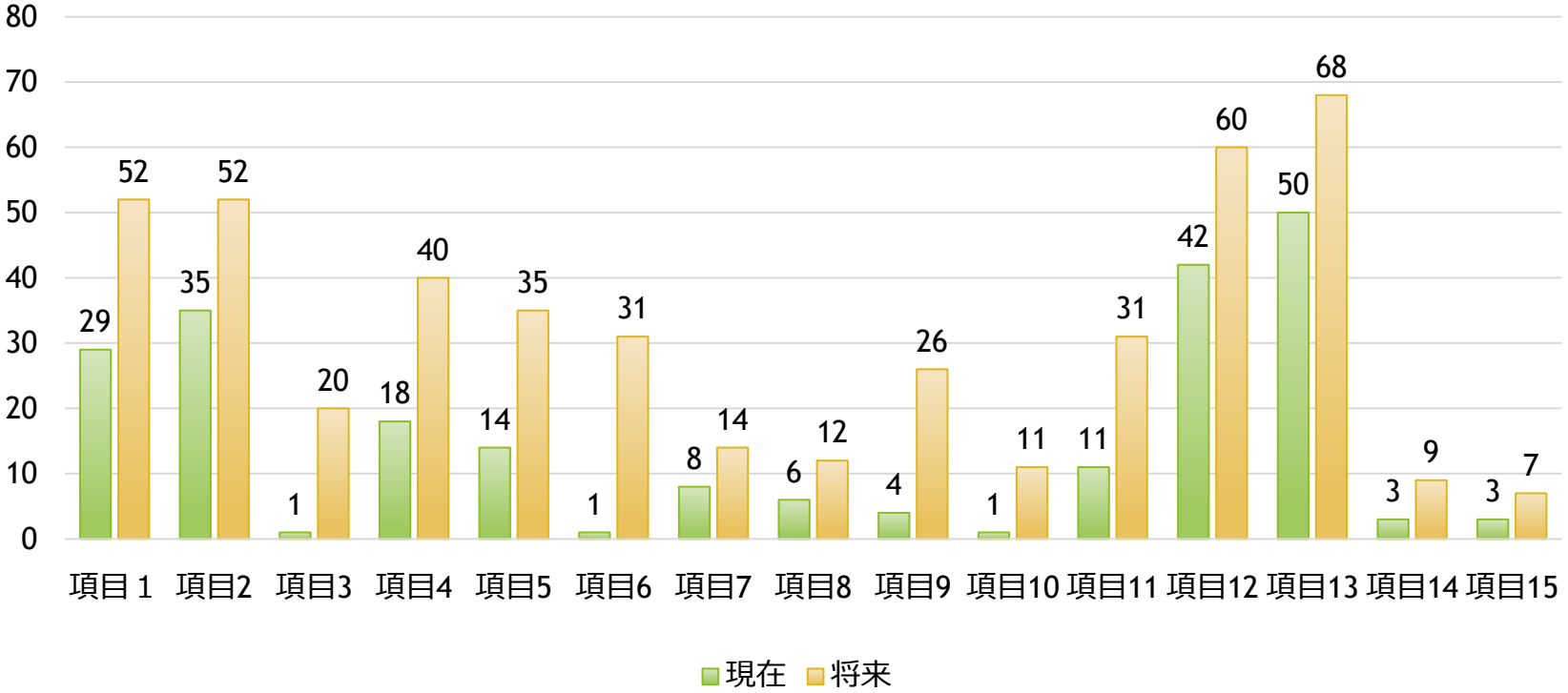




希望する標準的な区画面積については、全体で見ると2haを基準に半分に分かれている。年代別で見ると高齢になるにつれて、標準区画の面積が少なくなり、若い年齢ほど区画面積を大きい面積で希望する意向が強いと思われる。対面式聞取り時では、やや低めにチェックする傾向もあったため、検討する際には、地域全体で改めて考えていく必要がある。

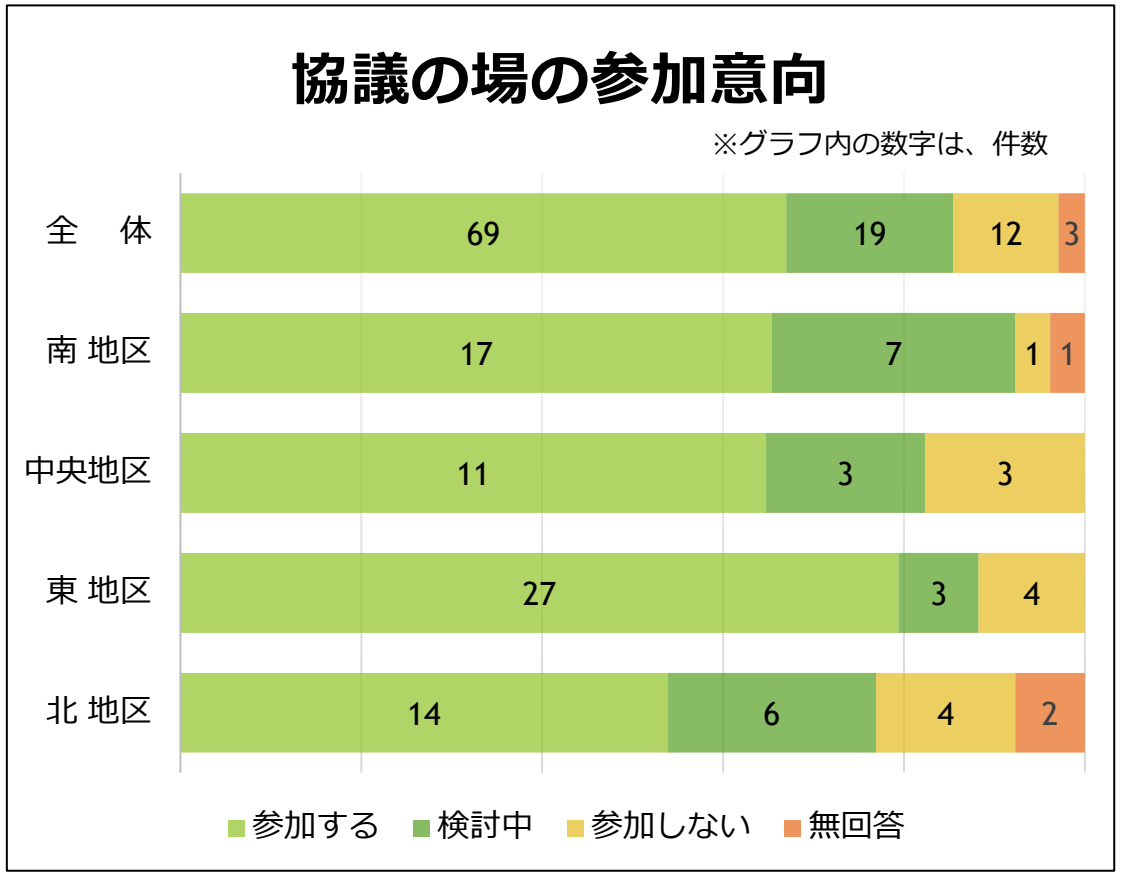
将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -

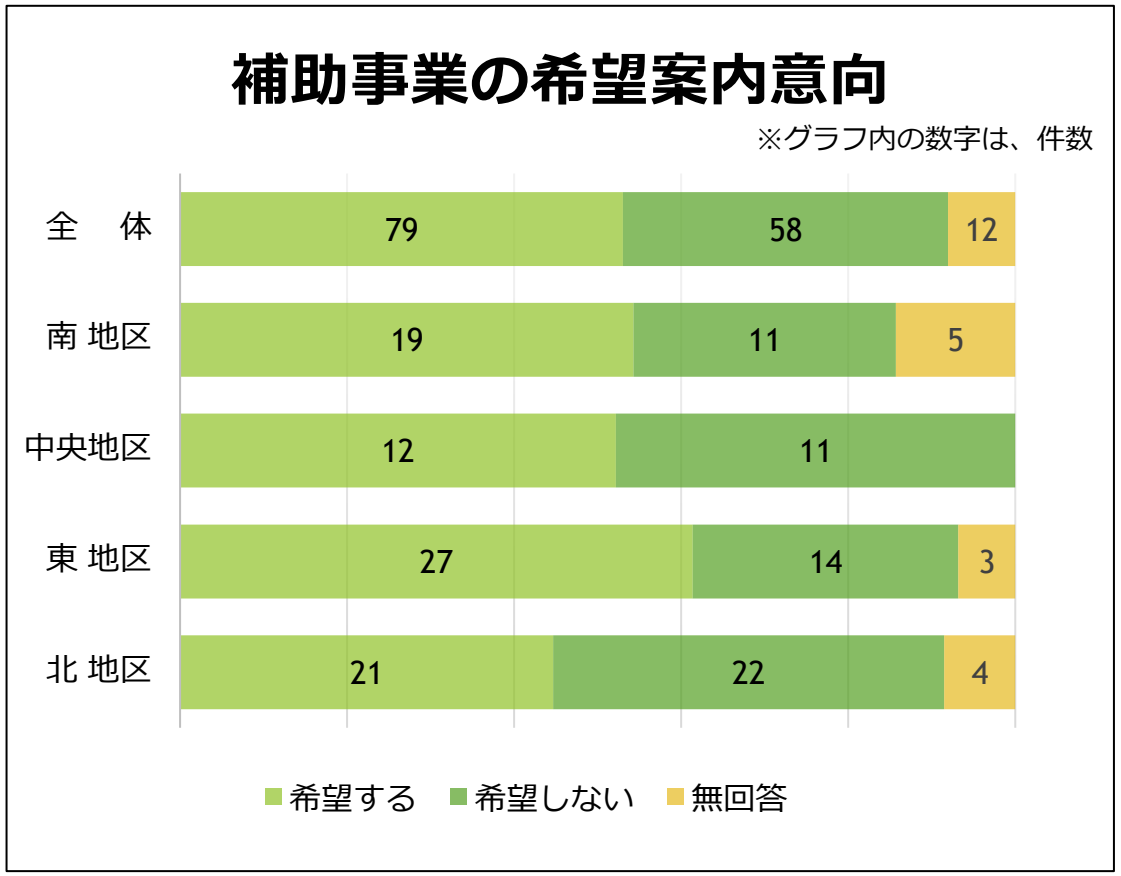
　基盤整備と合わせて現在と将来の目指す営農については、自動操舵によるトラクター・田植機を用いた作業の省力化を図ろうとしている農業者が多く、ドローンの普及と合わせて利用・導入を検討していることや関心が高いことが言える。条件をより良くしていくことと合わせて、営農体系も変化してきている。
　また、品質向上と合わせてコスト低減を計画している農業者が多く、近年の物価高騰の影響もあり、販売収入の増加とコスト低減での所得拡大を目指しているものと予想する。
　さらに、農業者の減少に伴い、１戸当たりの経営面積の拡大と合わせて、水稲の移植方法や栽培方法の変化もあり、新たな技術体系や水稲と畑作との田畑輪換についても、地域課題の一つと言える。
　今後も時代の変化とともに生産性向上、圃場条件や情報通信網の発達、機械化の更なる発展が進むことから、地域農業の目指す方向性を継続して検討していく必要がある。



機械・施設等	
1	自動操舵（トラクター）
2	自動操舵（田植機）
3	自動操舵（コンバイン）
4	ドローン
5	自動巻き上げ
6	自動給水栓装置・水位センサー
7	密苗・密播
8	湛水直播
9	乾田直播
10	節水型乾田直播
11	多収品種
12	品質向上
13	コスト低減
14	有機
15	水稲作業の委託（田植え・収穫・乾燥）

将来の地域農業に向けた基盤整備に関する意向調査　- 概要報告書 -





基盤整備に関する協議の場への参加意向に回答された103件のうち「参加する」と答えた農業者は、69件（66.99%）で、「要望する・検討中」93件との割合で言うとは、74.19%と高い。
補助事業の希望案内の意向については、スマート農業や基盤整備への関心が高いことから、案内希望者が多い。補助事業については、成果目標や費用対効果、耐用年数の関係もあり、営農意向等を考慮する必要がある。